

# 郷土研究会報

第29号

昭和58年9月5日  
発行  
酒々井町郷土研究会  
総務部

## 名字と地名

沖田 善三郎

広辞苑によると名字（苗字、苗氏）とは、  
 ①姓（がくせい）  
 ②氏から出た家の名、あるいは名を自分の  
 字（まなざし）としたもの。平氏から出た千葉、三浦の類と  
 ある。

史書（ししょ）の姓は古代豪族の称号、臣・連・造・君・直  
 県主・村主等であつて既に消滅してしまったものである。

現在、昔々が名字といつているものは、③によるものでその家の興った所の地名が殆んどである。  
 名字からは又その当時の勢力関係も推測出来るのではないかと思われる。

同じ平氏の出である千葉氏と上総氏の場合一般に千葉氏が本流の如く言われているが、千葉は郡名であり上総は國名であるところから見ると國名を石巻<sup>3</sup>上総氏の方が本流であったようと思われる。上総氏はその強大さの爲頼朝によつ

て罪なく打ち破ってしまったことからもうがえる。名字も本流程広い地域を示す地名を取ることで千葉氏もその子孫は大須賀保東庄などに本拠を構え大須賀東等の名字を名乗る人達が出るが大体本家よりも狭い区域の地名である。

又、その子孫になると更に狭い区域である村落名を名字とする者が千葉系図に多く現われる。

千葉氏關係について見ると以上のようにあるが現在の私達の名字も大体村落の地名が多いようである。

同じ地名は各地にありので同じ名字であつても間族であるとは限らず、が名字から出身地を探りあてる事が出来るかも知れない。然し、名字の中には地名でなく官名や職業に由来するものもあるといわれている。官名では国司、郡司、戸丁村、官名と氏を示す齋藤、佐藤、職業又は職業集団の居住地を示す大養、錦織、服部等がそうであるといわれる。

昭和50年7月5日(火)

## ナンバーワン物語(三)

A生

## 長寿者

人生五十年といふのは昔のはなし、現在は日本人の平均寿命もぐんと伸びて世間才一位まであがつてきました。

別表(付)に昭和初期に男四、八ニ歳、

女四、六、七歳と、五十歳に満たないもののが戦

後の一九一七年になるとこれよりも男四、七五年、女一、二、七、三歳も寿命が伸びてきました。これら年を追えれば五十六年に男三と男七、三、七歳女七、一、三歳と平均寿命が世界一となりました。

寿命の伸びた原因はなんでしょうか。経済の安定に伴う食生活の改善、医学の進歩などがあります。現在我が長寿を保ついる老人は、みだり水をいます。明治、大正、昭和三代に亘って明治二十年代生れで明治、大正、昭和三代に亘っての風雪に耐えて数々の喜びも悲しむも経験して来られた人はかりです。ご苦労さまでした。そこで酒々井町の長寿ナンバーワンを調べてみました。当町に於ても例外でなく平均寿命の示すところナンバーワンは女性でそれにつぐ八十九歳以上の人達も男女、男女とがそあります。

## 郷土研日誌

4月 3日 伊藤松並木松樹剪定会  
参加者 19名

4月 9日 古文書学習会 参加者 9名

4月 10日 石碑調査 参加者 9名

4月 19日 山菜を食べ会 準備会  
参加者 7名

4月 21日 山菜採取 参加者 4名

4月 23日 小菜古食会  
参加者 65名

4月 24日 墓王大所神社、支山口神社  
辟生延草刈り 参加者 14名

5月 3日 野草の会 紹介会 参加者 23名  
城地方面懇親会 参加者 23名

6月 7日 小見川一大原遺跡見学会  
参加者 36名

6月 14日 日本文化会 37名

6月 15日 C.I. - 35名

6月 19日 町内史跡めぐらし本体倉城地  
参加者 52名

一	青木豊み	九六	中川
二	木村為か	九三	上岩瀬
三	小坂毛石	九三	酒々井
四	大野こと	九一	伊藤條
五	山河惣一	九一	栗瀬井
六	加藤ちづ	九	馬橋
七	福田ふよ	九	上岩橋
八	原田すみ	九	東浦井
九	宮野鏡	九	伊藤新田
十	音柳あさ	八九	伊藤幹
十一	大澤而け	八九	墨
十二	青柳あさ	八九	伊藤幹
十三	宮野鏡	八九	伊藤幹
十四	音柳あさ	八九	伊藤幹
十五	大澤而け	八九	墨
十六	青柳あさ	八九	伊藤幹
十七	宮野鏡	八九	伊藤幹
十八	音柳あさ	八九	伊藤幹
十九	大澤而け	八九	墨
二十	青柳あさ	八九	伊藤幹
二十一	宮野鏡	八九	伊藤幹
二十二	音柳あさ	八九	伊藤幹
二十三	大澤而け	八九	墨
二十四	青柳あさ	八九	伊藤幹
二十五	宮野鏡	八九	伊藤幹
二十六	音柳あさ	八九	伊藤幹
二十七	大澤而け	八九	墨
二十八	青柳あさ	八九	伊藤幹
二十九	宮野鏡	八九	伊藤幹
三十	音柳あさ	八九	伊藤幹
三十一	大澤而け	八九	墨
三十二	青柳あさ	八九	伊藤幹
三十三	宮野鏡	八九	伊藤幹
三十四	音柳あさ	八九	伊藤幹
三十五	大澤而け	八九	墨
三十六	青柳あさ	八九	伊藤幹
三十七	宮野鏡	八九	伊藤幹
三十八	音柳あさ	八九	伊藤幹
三十九	大澤而け	八九	墨
四十	青柳あさ	八九	伊藤幹
四十一	宮野鏡	八九	伊藤幹
四十二	音柳あさ	八九	伊藤幹
四十三	大澤而け	八九	墨
四十四	青柳あさ	八九	伊藤幹
四十五	宮野鏡	八九	伊藤幹
四十六	音柳あさ	八九	伊藤幹
四十七	大澤而け	八九	墨
四十八	青柳あさ	八九	伊藤幹
四十九	宮野鏡	八九	伊藤幹
五十	音柳あさ	八九	伊藤幹
五十一	大澤而け	八九	墨
五十二	青柳あさ	八九	伊藤幹
五十三	宮野鏡	八九	伊藤幹
五十四	音柳あさ	八九	伊藤幹
五十五	大澤而け	八九	墨
五十六	青柳あさ	八九	伊藤幹
五十七	宮野鏡	八九	伊藤幹
五十八	音柳あさ	八九	伊藤幹
五十九	大澤而け	八九	墨
六十	青柳あさ	八九	伊藤幹
六十一	宮野鏡	八九	伊藤幹
六十二	音柳あさ	八九	伊藤幹
六十三	大澤而け	八九	墨
六十四	青柳あさ	八九	伊藤幹
六十五	宮野鏡	八九	伊藤幹
六十六	音柳あさ	八九	伊藤幹
六十七	大澤而け	八九	墨
六十八	青柳あさ	八九	伊藤幹
六十九	宮野鏡	八九	伊藤幹
七十	音柳あさ	八九	伊藤幹
七十一	大澤而け	八九	墨
七十二	青柳あさ	八九	伊藤幹
七十三	宮野鏡	八九	伊藤幹
七十四	音柳あさ	八九	伊藤幹
七十五	大澤而け	八九	墨
七十六	青柳あさ	八九	伊藤幹
七十七	宮野鏡	八九	伊藤幹
七十八	音柳あさ	八九	伊藤幹
七十九	大澤而け	八九	墨
八十	青柳あさ	八九	伊藤幹
八十一	宮野鏡	八九	伊藤幹
八十二	音柳あさ	八九	伊藤幹
八十三	大澤而け	八九	墨
八十四	青柳あさ	八九	伊藤幹
八十五	宮野鏡	八九	伊藤幹
八十六	音柳あさ	八九	伊藤幹
八十七	大澤而け	八九	墨
八十八	青柳あさ	八九	伊藤幹
八十九	宮野鏡	八九	伊藤幹
九十	音柳あさ	八九	伊藤幹
九十一	大澤而け	八九	墨
九十二	青柳あさ	八九	伊藤幹
九十三	宮野鏡	八九	伊藤幹
九十四	音柳あさ	八九	伊藤幹
九十五	大澤而け	八九	墨
九十六	青柳あさ	八九	伊藤幹
九十七	宮野鏡	八九	伊藤幹
九十八	音柳あさ	八九	伊藤幹
九十九	大澤而け	八九	墨
一百	青柳あさ	八九	伊藤幹

日本人の平均寿命  
総理府統計局

年度	男	女
昭和元~5年	44.82歳	46.54歳
10~12	46.92	49.63
125~127	59.57	62.97
30	63.60	67.75
35	65.32	70.19
45	69.31	74.66
55	73.22	78.72
56	73.71	79.13

## 難読地名(四)

室賀淳吉

市原市

海有木(あまありき)

請西(じょうさい)

小田部(おたっぺ)

印旛村(いんばんむら)

分目(わしめ)

大廻(おおは)

百目木(どうめき)

逆井(さかまい)

古都辺(こつべん)

沼南町(ぬくなみまち)

八千代市(やちよし)

白井町(しろいまち)

神久保(いわくぼ)

神々廻(しじば)

桑野(さんのう)

横芝町(よこしばまち)

桑搗(さんのはし)

小堤(おんすみ)

東金市(とうがねし)

大豆谷(まめざく)

むかし、アソビ、あそび遊び(一)

宮本博司

昔と言ふも今から五十年位以前のことである。子供達は遊び場所は野山をはじめ家のまわりの空地などどこにもあった。

遊び道具は現在のように電気や電池等で作動するような

立派なものではなく、せいぜい隣町佐倉か村の駄菓子屋で売っていた風、グライダー、カルタなど位のものであった。從

て、遊び道具は自分で遊びに合わせて創意工夫をこらしたものだ。

さうに、今考えて見ると遊びことが自然或は季節に合わされたものが多かった。又、遊びの中に家不足になるようなものがあった。子供の集団は、横(同年輩)の關係は勿論であるが、今よりな学校あたり小人数家族とは異なる二と三関係があつたのか大きい兄弟、小兄弟と云ふように年令のひらきがあった。こんなことから遊びの中で年齢間の交流があり、みずから長幼のルールを覚え遊び方をなす抵抗もなく後輩に伝承され、今なお続いているものも沢山ある。

## ② 独楽(こま)まわし

正月が来ると小遣で独楽を買ったのである。独楽の中には大きいもの、小さいものといろくあつた。よく遊んだのは喧嘩独楽である。地面に一定の円を画き、その中で、回転を競う。円外に出たり中途で回転が止んだものは失格(負け)である。又圓そいの独楽を紐の上に乗せ綱わたりなどやる。回わす棒紐の根の方には、手がすべらないよう古錢(寛永通宝)などを用いた。

※ 他の遊びにつづくは次号に記します。

どうぞお楽しみに。



\*以上(の記事)は市内様押尾様(別当様)寄稿がありました。紙面の都合上次回(九月)に譲ります。承下さり。

昭和58年7月5日(火)

## 第3・4半期 行事案内

	七月	八月	九月
古文 学習会	9日(土)午後1時30分 中央公民館	休 み	10日(土)午後1時30分 中央公民館
石碑調査	10日(日)午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)	21日(日)午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)	11日(日)午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)
野草の会	30日(土)午後1時 京成酒々井駅集合 佐倉岩名飯田(雨天中止)	休 み	17日(土)午後1時 京成酒々井駅集合 飯仲大泉一台方面 (雨天中止)
史談会	12日(火)午後1時30分 中央公民館 酒々井町の民俗	30日(火)午後1時30分 中央公民館 酒々井町の民俗	27日(火)午後1時30分 中央公民館 酒々井町の民俗
郷土史講座	① 7月03日(土) ② 8月20日(土)	歴代の佐倉城主 (大堀館から佐倉城跡)	講師 植谷健蔵先生
文化財愛護	7月17日(日)午前9時青年研修所集合 午前中終了 雨天代替24日(日) 上岩橋貝層とカニカンムロの草刈り清掃		
県外見学会	9月25日(日)午前7時20分光ドライブ前 — 7時25分シヨビング前 出発午前7時30分中央公民館 見学地 横浜三渓園 山下公園 水川丸川崎大師 会費 ¥3500- 足員90名		申込受付 7月11日(月)午前9時以後 町史編纂室

## 新会員紹介 (57.3~58.1)

	氏名	地区
385	鈴木 八十	
386	松井 十一	
387	福田 とも	
388	千葉 なが	
389	園口 昌子	
390	青木 千ヨ	
391	青木 喜作	
392	相京 けい	
393	清宮 うめ	
394	内田 てる	
395	辻口 美代子	
396	石井 登美子	
397	西村 久乃	

## 行事会計報告

## 4月23日 山菜を食べ3会

収入 会費	500×65人	32,500
支出 材料費		21,039
差引残額 (郷土研織入札)		11,462

## 6月7日、14日、15日

## 小見川方面見学会

収入 会費	1,000×108人	108,000
支出 バス代		24,000
	年当代	60,000
	押観料	22,800
	駐車場謝礼40他	4,900
	計	111,700

不足 3,200 郷土研より支出